

視 察 報 告 書

報告者氏名：安川健人

委員会名：総務常任委員会

期 間：令和5年11月8日（水）～10日（金）

視察都市等及び視察項目：

- ① 大田区：OTA デジタル×PiO（大田区デジタルプラットフォーム）について
- ② 飛騨市：飛騨市ファンクラブと Edy の活用について
- ③ 金沢市：ICT活用について

所 感 等：

- ① 大田区：OTA デジタル×PiO（大田区デジタルプラットフォーム）について

《大田区の概要》

人口 734,114 人

面積 61.86km²

議員定数 50 人

議長 押見 隆太



大田区産業経済部より「大田区産業のデジタル化支援」について、企業のデジタル化を推進することを行政がどのようにバックアップしているかを中心にお伺いしました。

大田区は町工場が東京都内でも一番多く、昭和の終わり頃には約1万社もあり、その後、減少したものの現在でも約4000社あります。10名以下の町工場が多く、中でも従業員が4名以下の小企業が多くあります。その小さな町工場が連携して「仲間まわし」を昔からやっています。「仲間まわし」とは各工場が得意とする部門（匠の力）を受け持ち、小さな町工場が協力して高付加価値の仕事を成し遂げていく仕組みです。デジタル化は大企業ほど進んでいて、小さい企業が遅れている傾向がありま

すが、この「仲間まわし」をハブ企業が中心となってデジタル化する取り組みが行われています。

OTA デジタル×PIO は、コロナ禍でスタート。プラットフォームの中でデジタル化に関心を持ってもらい、当初 1400 人ほどが参加し、リアル空間での支援との連動により、付加価値の高い支援を展開しています。

ハブ企業が依頼を受けてクラウド上に情報を流すスキームで、今まではファックスで生産性が低かったが、デジタル化することで業務量が 10 分の 1 になり、現在およそ 100 社が加わっています。

このプラットフォームで各産業集積地と各自治体が連携することで、「今まで逃していた発注を取れるようにしていきたい」「アイデアはあるけれど形にできない。プロに相談したいというニーズに対応し、匠の力を使ったサービスを実現していく」「横須賀市とも是非連携したい」というお話も頂き、未来への可能性を感じました。

今まで取りこぼした仕事、海外に流れてしまった仕事、匠のノウハウを活かして大手では出来ないことをデジタル・プラットフォーム活用することで実現させてゆく。競争ではなく共に作るの「共創」というキーワードが印象に残りました。

横須賀市は、1990 年頃をピークに人口が減少し始め、2000 年以降は自動車、造船などの大規模工場の閉鎖が相次ぎ、人口流出に拍車がかかり、現在も人口減少の傾向は止まりません。半島という地勢上、交通の要所とはなりにくく、平地が少ないために、企業誘致が難しいとも言われています。中・小企業が「デジタル仲間まわし」を活用して成果を上げている大田区の産業デジタル化支援について、横須賀市にも大いに参考になるお話を聞かせて頂きました。

② 飛騨市：飛騨市ファンクラブと Edy の活用について

《飛騨市の概要》

人口 22,224 人
面積 79,253km²
議員定数 14 人
議長 住田 清美



飛騨市は、飛騨市の魅力を全国に発信し、飛騨市ファンを増やすことを目的に、平成 29 年 1 月に「飛騨市ファンクラブ」を設立しました。今回の視察では、その経緯や成果をお伺いしました。

飛騨市は、電車で名古屋まで 3 時間かかり「日本のチベット」と呼ばれているようですが、山に囲まれた自然豊かなまちで、近くに白川郷、下呂温泉などの観光名所があり、インバウンドでアジアのみならず、欧米から旅行に来る方も多く、外国人観光客の方が沢山いることに驚きました。

また、飛騨市は、古川まつりがユネスコの無形文化遺産に登録され、ノーベル物理学賞受賞者を 2 名輩出した「スーパーカミオカンデ」があるまちです。また大ヒットしたアニメーション映画「君の名は」の聖地としても知られています。

飛騨市の人口は、自然減と転出で減り続けており、この人口減少は統計的に解消されることは無いと推定されています。その為、近隣市とのパイの取り合いをするよりも、「人口減少先進都市」として人口が減少する中でどうしたら幸せに暮らしていけるかを掲げ、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

そのポイントは、地域外の人との交流を通じ、飛騨市に心を寄せてくれる方を増やしていくことで、映画「君の名は」の聖地巡礼をきっかけに生まれたのが「飛騨市ファンクラブ」です。

飛騨のまちを好きになってくれた人たちが市外から応援してくれるファンクラブを作り、会員の配った名刺を持って飛騨市でお買い物をすると、会員に松・竹・梅のプレゼントを用意するなど、ファンクラブに入るとメリットがある様々な仕組みづくりをしています。

SNS での口コミが広がり、増え過ぎて謝罪会見をしたことが話題となり、テレビの取材を受け、好循環が生まれ、目標だった 1,000 人を優に超えたそうです。

また、市長自らがバスツアーやまち歩きのガイドをやることが大好評となったそうです。

会員数は、現在 12,300 人を超えています。飛騨市の人口の半分を超える会員数に達しています。

ふるさと納税は、楽天と連携して 2 年で 10 億円突破を目標にスタートし、2022 年には 19.2 億円を突破しています。

ファンクラブの集いを各地で行なっていますが、予算はすべてファン

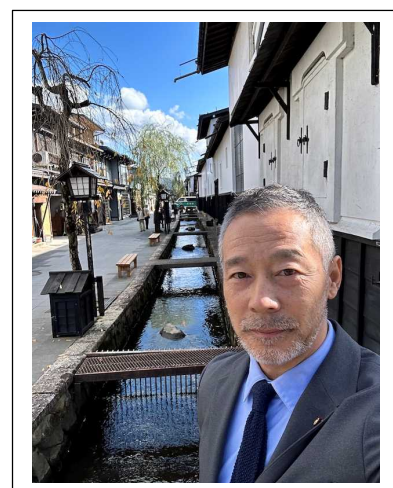
クラブの寄付金で賄っており、飛騨市の一般財源は一切使っていないと
のことでした。ファンクラブの会員からスタッフとして参加してくれる
方も増え、「観光客以上、移住者未満」の関係人口（住民ではないが飛騨
市との関わりを大切にしてくれる人達）が増加しています。

飛騨市内での困り事の解決を手伝ってもらう「ヒダスケ」という助け
合いを生み出すプロジェクトがコロナ禍の 2020 年にスタートしていま
す。農業との相性も良く、有機農業のお手伝い、イベントをやるときの
スタッフ、祭りのお手伝いまで、手伝ってもらい、お礼をするという「お
互い様」の精神で成立しています。

日本全体の問題でもありますが、「人口減少が止まらない」という悩み
は横須賀市も共通しています。近隣市とのパイの取り合いではなく、地
域の持っている特徴を生かした魅力あるまちづくりをすることで、市外
からも沢山の方から応援されている飛騨市の取り組みは、大いに参考に
なりました。

右の写真は、飛騨市役所から飛騨古川駅ま
での帰り道。山に囲まれた自然豊かなまちで、
空気の良さを実感しました。

白壁土蔵と横を流れる瀬戸川には鯉が泳ぎ、
古い街並みには風情があります。
外国人観光客も多く、私も飛騨のファンに
なりました。



③ 金沢市 ICT 活用について

《金沢市の概要》

人口 457,719 人
面積 468.81km²
議員定数 38 人
議長 高誠



2021 年 9 月に、日本のデジタル社会実現の司令塔としてデジタル庁
が発足しました。金沢市では、いち早く「誰一人取り残されないデジタ

ル都市・金沢」を基本理念に掲げて、行政のみならず、地域社会のデジタル化をさらに加速する取り組みを行なっています。

今回は、金沢市の DX（デジタル・トランスフォーメーション～IT・デジタル技術の活用によって社会や生活様式を変革すること）の取り組みについてデジタル行政戦略課の担当課長よりご説明頂きました。

金沢市では、2019年に「金沢市ICT活用推進計画」を策定し、事務効率化などを積極的に取り組んでいく中、コロナ禍となり、新たな生活様式や働き方が求められるようになりました。これを機にデジタル化を強化・加速するために「金沢市デジタル戦略」が発表されました。

DX 促進を庁内から、行政職員からスタートし、レベルアップ、バージョンアップを頻繁に行い、半年ごとに改訂を行なっています。

DX 会議では、市側の委員として、市長をはじめ部局の人たちも委員として参加し、車座になって忌憚のない意見交換をして、産業、文化、教育、行政の DX 化を進めています。

一例としては、RPA と AI-OCR を使った「書かない、待たない市役所」の実現です。

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは、人間がコンピューター上でおこなっている定型作業をロボットで自動化すること。AI-OCR（人工知能を使った光学文字認識機能）は、紙媒体のものをスキャンしてデジタルでデータ化すること。

この二つの技術を使いこなすことで、「市役所に行って書類を沢山書かされた上、長時間待たされる」という煩わしさを無くす試みです。

そのほかにも、職員の働く環境整備として「フリーアドレスの導入」、「テレワーク環境の整備」、「ペーパーレス化の促進」、「サテライトスペースの整備」といった様々なことにチャレンジしてきました。

フリーアドレスの導入とは、オフィスの中で固定席を持たずに、ノートパソコンなどを活用して自分の好きな席で働くワークスタイルのことを意味します。

全庁で取り組むのは全国でも初めての試みで、従来は全員分の印刷が必要だった資料もデータ一つで共有でき、個人の荷物はロッカー収納で個人の所有物が減り、デスクの上に書類が積み重なるようなこともなく、庁内のスペースの整理整頓が行き届いています。

フリーアドレス導入やテレワーク環境・サテライトスペースの整備に

よって「コミュニケーションも活性化した」「別の係の仕事の理解が進んだ」という意見もあり、導入してトラブルもなく浸透し、今ではスタンダードになっています。

また、ペーパーレス化により、ペーパーレス会議は 100%、コピー機利用枚数は 42%削減、電気料の削減にもつながる（夜間電力が減った）など、生産性が向上しています。

DX に必要な人材育成にも取り組んでおり、リテラシー、デジタル人材の底上げ、職員研修、職員のスキルアップを積極的に図っているそうです。

横須賀市でもデジタル・ガバメントを積極的に推進しているので、金沢市の取り組みも大変参考になりました。溢れる情報を整理整頓して、スマートに活用することで、行政のサービスが向上されるように、そして私個人も、社会の流れに置いて行かれないように、デジタル・トランスフォーメーションしていきたいと思います。